大学教養教育におけるスピーキング能力を育てる授業実践

―コミュニケーションIAでの実践を中心に―

築　道　和　明
広島大学外国語教育研究センター

1　はじめに

私は，５年前の2006年４月に広島大学に着任した。現在の所属は広島大学外国語教育研究センターである。このセンターは，広島大学の教養教育における外国語教育に関して，その企画・立案・実施にあたる部局であり，私の主要な任務の一つに，教養教育での英語教育の授業を担当することがある。

本論では，広島大学着任後に私が担当してきた教養教育の英語授業に関して，授業実践での取り組みの具体を記すと共に，学生の授業評価アンケート結果も踏まえながら，これまでの試行錯誤の中での実践の概要を報告する。

2　過去の教育経験

広島大学に着任する前，私は20年間にわたって国立大学の教員養成学部に所属していた。特に２つ目の勤務先では，教養教育の授業担当には関与せず，授業としては英語専攻の学生を対象に教職科目や教科専門科目を16年半にわたって担当してきた。教養教育の英語教育に関しては，言うなれば初心者に近いと言えよう[1)]。もちろん，英語科教育法等の講義の中で教授方法やカリキュラム，教材等について講義や解説をすることはその職務の一部であったし，小学校，中学校，高等学校の教室現場に出向いて，英語の授業を参観し，「指導助言」を求められる機会も多々あった。しかしながら，こうした機会での主たる対象は，初等学校や中等学校での英語教育であり，高等教育機関である大学での英語教育ではなかった。

このような個人的な背景を持つ教員として，2006年からの教養教育の英語授業は，ゼロからのスタートであったと言ってよい。もちろん，中等教育までの英語教育での実践がヒントになる場合もあるし，学校種を問わず有効な指導方法や教室運営の手立てもあることは否定できないが，中等教育での英語教育を終えて，大学に入学し，英語学習の主要な目的意識を失いつつある学習者に，どう対峙すべきかという課題は極めて大きく，日々の授業においても大いに悩んでいるところである。

3　コミュニケーションIAでの実践

3.1　カリキュラムの中での「コミュニケーションIA」

広島大学では，教養教育の２年間で英語は６単位を履修する[2)]。１年次では半期２科目をそれぞれ１単位ずつ履修し，２年次になると６つの授業科目からそれぞれ半期１科目ずつ選択し，履修する。１年次の授業については，英語の４技能それぞれに焦点を当てた授業を学期にバランス良く配置し，１年間を通じて英語運用能力を総合的に養成するという形のカリキュラムである。私は，前期の授業では，2007年度，2008年度，そして2010年度，スピーキング能力の養成に重点を置く「コミュニケーションIA」を中心に担当した。広島大学は，TOEIC　IPのスコアに基づ

いて，習熟度クラスを編成しているが，私が担当してきた「コミュニケーションIA」の学生は中から下位層の学生が多い。中学校，高等学校で英語があまりできずに，苦手意識を持っている学生達である。また，学生の専攻分野も教育，医歯薬，工学等，複数にわたっている。

さらに，シラバスは各授業担当者が書くのではなく，外国語教育研究センターがまとめた共通シラバスを用いている。この共通シラバスによれば「コミュニケーションIA」の概要は，以下の通りである。

> 授業の概要
> 日常的な場面において適切に英語で口頭表現する力をつける。また，相手の社会的・文化的背景を意識して，英語で自分のまとまった考えや意見を明確にかつ簡潔に表現する力を養う。(p. 2)

以下，2010年度前期に担当したコミュニケーションIAの3つのクラスのうちから一つのクラスの実践を取り上げ，授業の概要，主な活動，授業アンケートを中心にした学生の声等の観点から授業実践を報告し，今後の課題を探りたい。尚，担当した他の2クラスの授業でも，その内容はほぼ同じものであり，学生の反応も類似したものであるが，本稿では，3つのクラスの中でも英語力の面で最も大きな問題を抱えていると思われる一つのクラスを対象にして，考察を加えることにする。

3.2 コミュニケーションIAを構成する主要な柱

前述したように，共通シラバスに従いながら，つまり授業担当者は英語授業の目標と目標を達成し得たか否かを測定するための評価の観点を共有しながら，具体の授業実践に関しては，教材を含めて，それぞれの英語教員が独自に最大限の努力をするというのが，広島大学の英語教育の基本的な姿勢である。私の場合も前述の共通シラバス，評価の観点・規準に基づきながら，初回の授業では，Appendix 1のような授業担当クラス用のシラバスを配布することにしている。

このシラバスからも明らかなように，私が担当するコミュニケーションIAの授業は，基本的には以下の柱から構成されている。

Greetings（英語による挨拶及び学生との短い相互作用）
↓
Q & A in pairs　（ペアによる質問・応答の練習）
↓
Keep talking　（ペアによる会話の継続）
↓
Quiz on the Textbook　（教科書の例文の暗唱クイズ）
↓
Paraphrasing　（手持ちの表現で物や事柄を説明する訓練）
↓
Reflection　（授業の振り返り）

これらの主要な活動については後述するが，このような流れでの授業を15回の授業の12回程度実践し，残りの授業時間を使用して，speech を受講生全員に課すことにしている。授業回数では，１回程度準備の時間をとり，２回ないし３回の授業時間を使って，全員に３分程度の speech をさせている。その他，毎回の授業ではないが，時折英語の歌を取り入れてもいる。歌は，リスニングの指導の一環としての位置づけもあるが，それ以上にそれぞれの歌に込められているメッセージを読み取り，メッセージに対する考えを英語でまとめ，発表するという側面を重視している。本論文では，紙幅の関係で歌の指導については詳しくは述べないが，授業終了時の学生へのアンケート調査（Appendix 4）においても歌に対しては極めて好意的な回答が多い。学生の中には，自分が好きな歌を是非授業で取り上げて欲しいということを申し出る者も出てきたので[3]，今後は授業の中で活用したいと考えている。

最後に，成績評価について触れておく。シラバスにも記載しているが，基本的にはパフォーマンス評価を中心に行っている。前述した speech の作成でのプロセスと speech の実際と英語による個人面接を用いて成績評価を行っている。

3.3　授業運営上のルール

冒頭で述べたように，私の場合，大学の教養教育における英語授業の経験は2010年度で，５年目である。2006年度の初めての授業では，今でも鮮やかに覚えているが，60名近くの学生を前にして，第一声を発声するのに，緊張のあまり声や足が震えていた。また，当初は，授業のルール等について初回の授業で明示しておくという余裕もなく，結果として，少数の学生から授業運営についての不満の声も後で聞く羽目になった。そのような経験から，２年目以降は，授業運営のルールを第一回目の授業で明示し，学生との約束として明確にするようにしている。シラバスにも明記しているが，特に学生にとっての一番の関心事である成績評価の規準や方法を確認し，授業にどのように臨むべきかを伝えている。

その他，後述するようにペアやグループでの活動を多く取り入れるために，必ず隣や前後にクラスメートがいる必要があるので，授業での座席は指定している。初回の授業で，そのことを確認し，特に視力に問題のある学生がいれば，優先的に前の座席に移動させるが，同じ座席に授業期間を通じて座るように指示している。座席を指定することにより，コミュニケーションIA のように最大35名のクラスであれば，学生の顔と名前がある程度一致するようになるという利点がある。また，小テストやレポートなどのフィードバックにおいても，学生にスムーズに返却することが可能になる。

また，毎回の授業では，その日の授業の流れを黒板の一定の位置に板書している。これは，当初は指導案代わりに授業者である私が授業の流れを把握するために書き始めたものであるが，学生からは授業の流れがわかって安心できると好評である。また，具体的なデータがあるわけではないが，最近の様々な個別支援を必要とする学生が教室にいるとすれば，個々の学生の認知特性に配慮した指導に重なる面もあり，何らかのプラスになっているのではないかと思う。

これらの授業運営上の配慮の他に，授業の中で突発的に生じた問題については，必ずクラス全体に対してフィードバックをはかり，今後類似の問題が生じた場合の対応方法を確認するように徹底している。例えば，遅刻した場合であるが，最初に遅刻した学生が出た段階で，全員に該当の学生と私とのやり取りに注目させ，遅刻した場合は，教員の所に行き，英語で理由を述べた上で着席するという手順を徹底させるようにしている。あるいは，最近の学生は，授業中にトイレ

に行く等の理由で教員に許可を得ずに教室を出る者もいる。そうした場合も，該当の学生を呼び，クラスの全員に対して，どうすべきかを指示するようにしている。

初回や２回目の授業で，こうした授業運営上のルールを事細かく述べると学生の方は，少し厳しい授業だという印象を抱くようであるが，徐々に楽しい活動を取り入れることによって，最終的には，授業運営上のルールは徹底され，それほど厳しいものとは思わなくなるようである。本年度の授業でも，最終授業においてAppendix 4に示した授業評価アンケート調査を実施したが，その中の自由記述欄には多くの学生から「楽しかった」という意見が出されている。一人の学生は「音楽が好きなので，毎回の授業が楽しみでした！！　もっと先生と授業をしたかったです。初めはこわそうな人だなーと思っていたのですが（笑い）。楽しい時間をありがとうございました。」とも書いている。この意見に代表されるように，授業規律を徹底することと授業の満足度というものとは必ずしも相反するものではないと言えよう。

3.4　主要な活動

では，コミュニケーションIAでの私の授業の中心的な活動を授業の流れに沿って，具体的に記述する。尚，実際の授業では，以下に取り上げる主な活動以外にテキスト（『起きてから寝るまで　口慣らし練習帳』アルク）を用いて，学生に一定範囲を授業外で学習させ，基本文を覚えているか否かを確認する活動を取り入れているが，ここでは割愛する。

3.4.1　Q & A in pairs

授業冒頭の挨拶の後，ペアになるように指示し，Appendix 2に示した英問英答のプリントをペアで交換し，聞き手の学生は相手が質問に答えることができたら，プリントの左にある□の欄にチェックを入れていく。同じプリントを使って，例えば１分間という制限時間にいくつの質問に答えられるかというゴールを設定する。また，最後の質問まで一通り答えることができるまで授業で反復練習をしたら，今度は特定の質問に関してペアで会話を継続するというように別のタスクを課すこともある。同じプリントを使用して，最初の授業の数回は，質問を全て一通りカバーできるように，同じ手順で活動を進めていくと英語に苦手意識のある学生も安心して取り組めるようである。また，ある程度ペアでの会話がスムーズに運ぶようになったら，以下のように別の少し要求度の高い新たなタスクを与えると活動への取り組み意欲も維持できる。

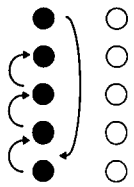
聞き手：英語で質問　→　話し手：質問に回答　→　聞き手：回答に関連した質問　→
話し手：関連質問に回答　→　聞き手：さらに質問（以下，時間まで同じように進む）

なお，私の授業では，一つひとつの活動をできるだけテンポ良く行うために，10分程度を最大時間として設定し，別の活動に進むように意識している。

3.4.2　Keep talking

ペアによる質問と答えの練習に続いて，次に行うのは一つのトピックに関連して一定程度英語での会話を継続するという活動である。この活動は，磯田（2007）での報告を基に実践し始めたものである。まず，全員を起立させ，列毎で向かい合うように指示する。その上で，教師がその日のトピックを提示し，最初は30秒程度，徐々に１分，１分30秒，２分というように会話の時間

を長めに設定していく。この活動のポイントは，磯田（2007）で記述されているように，２点にまとめられる。第一に，話し手の発話文の数を数えさせる→話し手の話の内容を要約させる→話し手の話に反論する，というように要求度の高いタスクを順に聴き手に課すという点である。第二に，同じトピックに関して，対話相手を変えて，数回繰り返すという点である。従って，下図にあるように一回目の対話で話し手，聞き手の双方の役割をそれぞれ30秒間（合計１分の対話）を終えると一方の列の学生全員が一つずつ位置をずれて新しい対話相手と同じトピックで同じタスクを繰り返すのである。こうすることにより，一回目の会話よりも二回目，三回目と場数を踏むことによって，発話文の数を伸ばすというゴールを設定して，そのゴールを達成できたか否かで，運用面での伸びを把握することが可能となる。



私の実践では，初回，2回目ぐらいまでトピックとして“How did you spend last weekend?”といった日常的な話題を取り上げたが，中盤から後半にかけては，できるだけ議論が発展するように，以下に示すトピックから毎回一つを選び，英語で議論を継続するということを行った。

Topics for Mini-Debate

□1 Is it better to be an only child or to have siblings?
□2 ***Which*** do you prefer, wearing contact lenses or glasses?
□3 ***Which*** do you like better, bread or rice for your breakfast?
□4 ***Which*** would you like to be, a boy or a girl in your next life?
□5 ***Which*** do you like better, rainy days or sunny days?
□6 ***Which*** do you prefer, living in a big city or living in a small village?
□7 ***Which*** is more important for you, money or a dream? (money or love?)
□8 ***Which*** is more annoying, motorcycle gangs or mosquitoes?
□9 ***Which*** do you think are more useful, mobile phones or computers?
□10 ***Which*** would you prefer, living in a condominium in a big city or living in a house in the countryside when you get old?
□11 ***Which*** do you like better, meat or fish? (steak or *sushi*?)
□12 ***Which*** do you think better, living in an apartment alone or living with your family?
□13 ***Which*** would you like to eat, curry and rice or ramen on a hot summer day?
□14 ***Which*** would you choose for your pet, dogs or cats?
□15 ***Which*** do you like better, team sports or individual sports?
□16 ***Which*** would you like better, cooking for yourself or eating out at a restaurant?
□17 ***Which*** do you want to go to on a graduation trip, Hokkaido or Okinawa?
□18 ***Which*** would you eat first, the food you like or the food you hate most?

□19 ***Which*** would you prefer, taking tests or writing reports?
□20 ***Which*** would you prefer, a good-looking or smart boy/girl friend?
□21 ***Which*** would you rather be, a morning person or a night person?
□22 ***Which*** do you use, a bed or a *futon*?
□23 ***Which*** do you eat more often, Japanese food or Western food?
□24 ***Which*** would you prefer to learn, English or Chinese?
□25 If someone you know had cancer, would you like to tell them about it or not?

（いくつかの質問は，松香フォニックス研究所『QA 300 SB』を参考にした。）

3.4.3 Paraphrasing

この活動は，主として方略能力を駆使しながら，同時に語彙力を伸ばすために設定したものである。学生は，ペアを組み，一人が黒板の方を向き，もう一方が教室の後方を向いて，起立した状態で対面する。黒板の方を向いた学生に，教師がある言葉を提示し，学生は聞き手にその言葉を手持ちの表現を総動員しながら英語で説明していくという活動である。聞き手である学生は，相手の説明するものがわかった段階で日本語で答えを言い，正解にたどり着いたら，終わりとなる。説明する側と答える側の役割を交代して，別のトピックで同じように進めていく。説明用の言葉として毎授業４つを準備し，そのうち２つは日常生活に関わるもの（例えば，「蛍光ペン」，「花粉症」等）を，残り２つは，学生のそれぞれの専攻分野に関わるもの（例えば，教育学部の学生であれば，「日直」や「算盤」等）を説明するようにした。

この活動が終わると該当する英単語がある場合は，それを板書する。次に，英英辞書で該当の単語を各自で調べ，その定義を読み，定義を参考にして自分の説明文を改良するという作業も行った。さらに，本年度は下記のプリントを配布し，定義を書き，活動の中で英語の表現がわからなかったものや自信のない表現について報告するように求めた。この用紙は授業後，回収し，コメントを記して，次回の授業で学生達に返すようにした。ただ，個別の質問がたくさん出たため，それ

Communication IA (Spring/Summer 2010) Prof. TSUIDO

REFLECTION ON TODAY'S CLASS

1. Reflect on what you have done in today's class and write your idea and questions below.

(1) Paraphrasing Activity で，

□自分が説明した英文を思い出して，できるだけ忠実に下に再現してください。

□相手が説明した英文を思い出して，できるだけ忠実に下に再現してください。

(2) △△を英語で伝えたかったけれど，言えなかったという内容があれば，下に日本語で書いてください。
（単語でも文でも）

2. Any questions or comments?

らに対応することに多くの時間を費やし，共通して出てきた質問や問題点，あるいは英語表現上の誤り等について，クラス全体へのフィードバックや議論へと十分には発展させることができなかった。

3.4.4 Speech

前述したように，15回の授業の最後の２回（ないしは３回）を使って，学生一人ひとりに英語で３分程度のスピーチをさせた。このスピーチに関しては，初回授業の授業概要の説明においても言及し，中盤の授業で再度，スピーチのトピックを決めるように促した。その際，これまでの生活で最も印象に残っている内容で，且つ是非他の学生にも聞いて欲しい中身（つまり傾聴に値する内容）を選ぶようにということを強調した。従って，「私の趣味」等といったわりとよく耳にする話題は，望ましくないことを伝えた。また，印象的なエピソードがないという学生もいる可能性があるので，これからの生活に関する内容（卒業後の夢）や全くのフィクション（つまり作り話）でも良いという逃げ道を作っておいた。実際は，大半の学生が高校や中学での部活動等をテーマに選ぶことが多かったが，同じテーマでも切り口が異なるので，聞いている側の学生達は飽きることなく，非常に熱心に聴いていた。

スピーチのための時間は，授業の３回分程度しかとれない。従って，まずは，Appendix 3に示したように教師がモデルスピーチを行い，原稿を書くための用紙をその後配布する。原稿は宿題とし，１週間後の授業で，まずクラスメートに目を通してもらい，疑問点や面白い点などを原稿に直接記入させた上で回収した。その後，教師の方で点検を加え，翌週の授業で返却し，清書を指示した。中には，英単語を使用してはいるが，語順が全く混乱している原稿もあったので，個別に研究室に呼び，学生とやり取りしながら協同で原稿を完成するということも行った。スポーツで全国大会に出場したという学生もいたが，トピックとしては素晴しい内容でありながら，学生の英語力が対応していないケースがあり，その学生にあった英語レベルで内容のある原稿を完成するという作業は，予想以上に大変であった。

スピーチの本番までに練習に費やせる時間は１回分の授業のみであった。ここでは，まず個人練習，その後ペアでの読み合い，さらに４人グループでの読み合い，というように聴衆を意識したスピーチを行う訓練をした。個人練習では，立った状態での練習を本年度は取り入れた。教室の四方を向いて，30名あまりの学生が原稿を片手に何やら口をパクパクさせている様子は，第三者から見れば，異様な光景に映ったかも知れない。

スピーチの本番では，まず，最初に発表したいという希望者を募った。幸いなことに一人の男子学生が手を挙げたので，彼に一番手としてスピーチをさせた。別のクラスでは単純に列毎に私が発表順を決めたが，このように希望者を募るという形の方が，功を奏したようである。というのも，最初にスピーチを行った男子学生は，何度か途中でつまったものの，ほぼパーフェクトに暗唱していたので，続く学生に無言のプレッシャーを与えたからである。他のクラスでみられた原稿に何度も目をやりながらのスピーチは，このクラスでは，ほとんど見られなかった。また，聴衆の学生達には，小さい用紙を配布し，それぞれの学生のスピーチについてできるだけ肯定的なコメントを記すように指示した。この感想については，教師が目を通した上で，次回の授業で該当の学生に渡したが，それぞれクラスメートからのコメントを熱心に読んでいた。

なお，学生のスピーチは全員分をビデオ録画し，再度細部を見直して，評価に活用している。その他，特に優れたスピーチについては，次年度コミュニケーションIAを担当した場合に，学生にスピーチの実例として提示し，目標を具体化させる一助にしている。

4　授業に対する学生の反応

広島大学では，全学で共通した学生の授業評価アンケートを実施している。しかし，2009年度から，紙媒体での授業評価アンケート調査に代わって，web 上のアンケート調査へと実施方法が変更された。それに伴い，私の授業に関しても回答率は50％前後に落ち込み，教員へのフィードバックという意味では，あまり有益な情報を提供してはくれなくなった。私は，2006年度から，全学で実施する授業評価アンケート調査とは別に，独自のアンケートをそれぞれの授業内容に応じて作成し，学生に回答を依頼してきた。本年度も Appendix 4 に示した授業評価アンケート調査を最終授業の終わりに33名の履修学生を対象に実施した。

このアンケート調査は２つの柱から成る。一つは，３で詳述した授業を構成する主な活動についての評価を５段階のスケールで問う質問である。今一つは，授業全般に関する自由記述である。

前者に関して，33名の回答平均値は以下の通りであった。

(1) Q & A in pairs	4.3
(2) Paraphrasing	4.4
(3) Textbook	4.1
(4) Speech	4.3
(5) Getting used to speaking in English	3.7
(6) Songs	4.5

質問項目(5)は，授業中の活動に対する評価ではなく，授業を通じて「英語を聞いたり，話したりすることに対する慣れ」の程度を問う質問であるが，この数値が他の項目と比べると若干低い。しかし，それでも5段階の評価であることを考えると学生は概ね授業内容に関して満足していると考えて差し支えないだろう。

また，自由記述に関しては，33名中，32名が何らかの記述をしていたが，そこで記された内容に関してキーワードを取り上げてみると以下のような結果となった（数字は人数)。

・楽しかった	26
・苦手，嫌いだが楽しかった	10
・歌が良かった	8
・慣れた	7
・クラスの雰囲気が良かった	4
・パラフレーズが良かった	3
・スピーチ	3
・内容が決まっていて安心	2
・もっとできるようになりたい	1

自由記述に出現した上位２つのキーワードは，相互に関連している。前述したように習熟度では低いレベルにあるこのクラスの学生達の多くが，英語に対して苦手意識や嫌悪感を抱いておりながらも，授業を受けることによって次第に苦手意識や英語に対する嫌悪感が和らいで，やがて楽しく感じるようになっていったということが読み取れる。ただ，そうした授業に対する好意的

な反応が，学生の英語運用能力，とりわけ口頭での発表能力に直接つながっているかと言えば，疑問が残る。実際，私が本年度以前に担当したコミュニケーションIAに関して，大学共通のアンケート調査において，2007年度も2008年度も「総合的に判断してこの授業に満足しましたか」という質問には，4段階評価で3.6から3.7にあるのに対して，「あなたはこの授業を受けて，語学力が向上したと思いますか」とする質問に対する回答は，3.1という数値に留まっている。

5　まとめと今後の課題

本稿では，教養教育の英語科目のうち，スピーキング技能を中心に学生の英語運用能力を養成するコミュニケーションIAの授業での取り組みを紹介した。教養教育の教育経験が5年という経験の浅い私が，試行錯誤の中でこれまでに実践した事柄を中心に述べてきたが，多くの大学で，FDの重要性が指摘されながらも，大学の外国語教育（とりわけ英語教育）の具体的な授業実践に関しての論稿は，案外少ないという印象を持っている。その点で，本稿が他の英語教員にとって何らかのヒントにつながることになれば幸いである。

最後に，本論の中でも述べたことであるが，ペアやグループを中心にした英語授業を適切に行うためには，授業の規律，教室内のルールの共有という点が欠かせないように思う。これは初等教育や中等教育でも同じであろう。とりわけ，Brewsterら（2002）が指摘するように，言葉による相互作用を前提とする外国語の授業では，教室運営面での基本的な姿勢がスムーズな教室内コミュニケーションを実現するための前提条件となる。にも関わらず，教員が陥りやすい問題として，学習者に嫌われたくないという潜在意識からか，ルール等について明確に示すことやルールを徹底することに対する躊躇いがあるように思う。あるいは，大学生なのだから，これくらいは言わなくても分かっているだろうという教員の先入観と学生の実態とのギャップから，授業運営の面で支障が生じるケースもあろう。また，英語の母語話者の場合，往々にして母国での教室での学習者と教師との役割についての暗黙のルールを前提に授業を進め，結果として，例えば日本人学習者からは何の反応もなく，コミュニケーションに対する積極性が欠如している，あるいは何らの意見も持っていない等という短絡的な判断をしてしまうケースも考えられる。

こうした問題を避けるために，私は，授業当初は特に教室でのルールを徹底することを重視した。授業規律の面では学生に妥協しないという姿勢を保ちつつ，一方で，授業の内容については，学生達の興味・関心を喚起するような試みを積極的に取り入れてみた。また，本論でも述べたが，スピーチ活動については，取り組む前の段階では学生からは不評であったが，実際に試みると大方の学生が，「途中で頭の中が真っ白になった」「言いたいことの半分も言えなかった」等，と振り返り，さらに努力を重ねたいと意欲を示すようになる。

このようなことから，教養教育の英語教育の意義として，英語運用能力を一定程度に養成するという重要な課題は認めつつも，週1回90分の授業での学生との交流の中で，授業担当者が実現しうること，あるいは，実現しなければならないこととは，まずは英語そのものに対する興味・関心を再度喚起し，これから自律した英語学習者として育っていくための土台を作ることではないかと考える。加えて，今後，高等教育段階でも認知特性に対応した指導が必要になる場面も生まれてくると思われる。いわゆる特別支援教育という観点からの指導であるが，とりわけ社会的な相互作用を中心にした外国語の授業では，他者との交流を授業の中でどう実現していくか，英語教育の領域で提案されてきている様々な教授法や指導技術以外にも，多感覚に訴える指導の在り方等を模索していく必要もある。

注

1）大分大学では，専門科目の担当以外に週２コマの教養教育の英語授業を担当していた。ただ，これは25年以上も前の事である。

2）広島大学では，教養教育の改革の一環で，2011年度より英語を６単位から８単位に原則増やすということが決定され，８単位を履修させる主専攻プログラムもある。

3）この学生は，イギリスの Blue というグループの曲を推薦してくれた。スピーチでも彼らの "The Gift" という曲の映像を流して発表した。彼女は，授業のコメントに「(前略) 高校卒業後英語から遠ざかろうとしていましたが，改めて興味がわき，国際サークルにまで入りました。(後略)」と書いている。

参考文献

Brewster, J., G. Ellis. & Girard, D. 2002. *The Primary English Teacher's Guide*. New Edition Essex: Pearson Education.

道面和枝　2009.『中２で楽しく会話が続く！「２分間チャット」指導の基礎・基本』明治図書

ELEC 同友会英語教育学会実践研究部会（編著）2008.『段階的スピーキング活動　42』三省堂

樋口忠彦・緑川日出子・高橋一幸（編著）2007.『すぐれた英語授業実践　よりよい授業づくりのために』大修館書店

広島大学外国語教育研究センター　2008.「教養教育　外国語科目（英語）シラバスおよび評価規準・基準一覧」

磯田貴道　2007.「英語でのスピーキングに対する抵抗感の変化」『広島外国語教育研究』No. 10, pp.47-56.

磯田貴道　2010.『教科書の文章を活用する英語指導－授業を活性化する技108－』成美堂

伊東治巳（編著）2008.『アウトプット重視の英語授業』教育出版

水谷信子　2007.『日本語の教室作業－プロ教師を目指すための12章』アルク

中嶋洋一　2007.「授業の質を高める8つの授業マネジメント」『英語教育』大修館書店，12月号，pp.10-13.

Nation, I.S.P. & J. Newton. 2009. *Teaching ESL/EFL Listening and Speaking*. N.Y.: Routledge.

太田　洋　2007.『英語を教える50のポイント』光村図書

田中武夫・田中知聡　2003.『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』大修館書店

田尻悟郎　2009.『(英語) 授業改革論』教育出版

築道和明　1995.「英語授業の「常識」と英語授業の改善－疑うことで目から鱗が落ちる－」『現代英語教育』研究社出版，11月号，pp.11-13.

築道和明　2000.「教師による説明の基本」『楽しい英語授業』明治図書，Vol. 20, pp.57-59.

築道和明　2000.「タスクに基づく英語学習　その効果と具体的な取り入れ方」『児童英語教師 Book 2000年度版』アルク，pp.91-96.

横溝紳一郎（編著）2010.『生徒の心に火をつける』教育出版

Appendix 1

(Communication IA 2010) Prof. TSUIDO Kazuaki, Institute for Foreign Language Research and Education)

1. The Aims of This Class: (See the common syllabus on the Web.)

英語のスピーキング能力を伸ばすための活動を中心に，読む，聴く，書く等の多様な言語活動を体験することにより，総合的な英語運用能力を伸ばす

2. The Specific Objectives:

・聴き取りやすい**発音**を習得する
・身の回りのこと（モノ，コト，ヒト）を説明できる**語彙**を身につける
・**日常的な話題**について一定時間，沈黙を避けて英語で**会話を継続**できる
・聞き手に配慮しながら，自らの考えや意見，気持ちなどを伝えることができる
・印象的な体験について，クラスメートの前でスピーチができる

⇩

以上のような英語による活動を通じて，基本的な対人コミュニケーション能力を養成する

3. The Main Activities in Class:

(1) Greetings:
(2) Warm-up: Practice asking and answering questions fluently in pairs.
(3) Paraphrasing exercise in pairs (Enrich your vocabulary)
(4) Getting accustomed to common words and phrases by using the textbook
(5) Songs (Express your opinions on songs and share your ideas with each other.)
(6) Consolidation (Reflection) (You are supposed to write your own feelings and goals for the future on your notebook after each lesson or after some activities are over, and your notebooks should be submitted to be checked by the instructor.)

4. Evaluation:

(1) Speech in class (in June & July)

(2) Interview test (in July)

(3) Classroom participation (how well you get involved in pair and group activities)

(4) Essay writing (for your speech)

(5) Self-study outside class

5. Office Hours

Tuesday: noon to 1:00 (Room # A315 in *Sogo-Kagakubu*)

Appendix 2

Keep your conversation going: Bombard your classmate with questions!!!!!!!!!!!!!!!!!!

<Who>

□□□□ (1) ***Who*** is your favorite □ (singer, writer, actor, baseball player, politician, etc.)?
□□□□ (2) ***Who*** do you respect most?
□□□□ (3) ***Who*** does the housework in your family?

<What>

□□□□ (4) ***What*** is your favorite food (sport, subject, animal)?
□□□□ (5) ***What*** are you good at? (What are you poor at?)
□□□□ (6) ***What*** are you going to do after school today?
□□□□ (7) ***What*** was your nickname when you were small?
□□□□ (8) ***What*** did you want to be when you were a child?
□□□□ (9) ***What*** is your favorite way to relax?
□□□□ (10)People have different ways of getting rid of stress. Some read; some exercise; others play computer games. ***What*** is your favorite way to get rid of stress?
□□□□ (11)***What*** is your favorite place to spend a one-day holiday?
□□□□ (12)***What*** do you usually do when you are free?
□□□□ (13)***What*** would you like to do next weekend?
□□□□ (14)***What*** are your hobbies?
□□□□ (15)***What*** are some sports that you would like to try some day?
□□□□ (16)***What*** is your most unforgettable thing in your life?
□□□□ (17)***What*** do you like most about the way you look?
□□□□ (18)***What*** features do you want to change?
□□□□ (19)If you knew that the world is coming to an end today, ***what*** would you like to eat for your last meal?
□□□□ (20)In your opinion, ***what*** was the greatest invention in human history?
□□□□ (21)***What*** are the good qualities of Hiroshima University?
□□□□ (22)***What*** were you most surprised at when you entered Hiroshima University?
□□□□ (23)***What*** time do you usually get up?
□□□□ (24)***What*** time do you usually go to bed?
□□□□ (25)***What*** are you going to do after you get home today?
□□□□ (26)***What*** do you usually do right after you get home?
□□□□ (27)***What*** makes you happy? (What makes you sad?)

<How>

□□□□ (28)***How*** is the weather today?
□□□□ (29)***How*** was the weather last Tuesday?
□□□□ (30)***How*** will the weather be tomorrow?

□□□□ (31)***How*** do you come to school (on rainy days)?
□□□□ (32)***How long*** does it take you to come to the campus from your house?
□□□□ (33)***How often*** do you go to a *karaoke* box ?
□□□□ (34)***How many*** children do (did) you wish to have when you get (got) married?
□□□□ (35)***How many*** books do you read per month?
□□□□ (36)***How tall*** were you when you were born?
□□□□ (37)***How old*** were you when you were able to ride a bicycle?
□□□□ (38)***How much*** money did you get as an allowance when you were a high school student?

<When>
□□□□ (39) ***When*** is your birthday?
□□□□ (40) ***When*** do you feel relaxed?
□□□□ (41) ***When*** did the World War II end?
□□□□ (42) ***When*** do you think people in Afganistan will be able to live a peaceful life?

<Where>
□□□□ (43) ***Where*** were you born?
□□□□ (44) ***Where*** do you live?
□□□□ (45) ***Where*** would you like to go in the future?

<Why>
□□□□ (46) ***Why*** are you studying English?
□□□□ (47) ***Why*** did you choose Hiroshima University?
□□□□ (48) ***Why*** do you think (　　) is so popular among (young) people in Japan?

<Which>
□□□□ (49) ***Which*** do you like better, rainy days or sunny days?
□□□□ (50) ***Which*** do you prefer, living in a big city or living in a small village?
□□□□ (51) ***Which*** is more important for you, money or a dream?
□□□□ (52) ***Which*** is more annoying, motorcycle gangs or mosquitoes?
□□□□ (53) ***Which*** would you prefer, living in a condominium in a big city or in a house in the countryside when you get old?
□□□□ (54) ***Which*** do you like better, playing baseball or playing soccer on rainy days?
□□□□ (55) ***Which*** would you bring with you, rice ball or bread when you climb Mt. Fuji?
□□□□ (56) ***Which*** would you like to eat, curry and rice or *ramen* on a hot summer day?
(おまけ)
□□□□ (57)How did you find today's class?
□□□□ (58)Which part of today's lesson did you enjoy most?
□□□□ (59)Which part of today's lesson did you enjoy least?
□□□□ (60)Why did you enjoy today's lesson? (Why didn't you enjoy today's lesson?)

Appendix 3

Communication IA (Spring/Summer 2010) Prof. TSUIDO

Making a speech

☐ Your preparation: Write a script for your speech. Your speech should be at least **three** minutes long. Also you should bring ***something*** with you so that your audience will understand your speech better. (⇒写真，実物，実演，絵，音楽，などなどを効果的に使用すること)

☐ Your draft: due on ( )

☐ Your task: Practice your speech, memorize it, and make a speech in class (probably at the end of June and early in July)

<Example speech>

Topic: ***A Rakugo Performer***

Introduction:

Do you know at what age professors at Hiroshima University retire? Well, when we become 65 years old, we have to leave Hiroshima University. Therefore, in my case I have nine more years to work for Hiroshima University.

Main Body:

Let me talk about my dream after I retire. My dream is to travel around the world and perform *rakugo* in English so that peoples all over the world can understand a part of Japanese culture.

I am not sure what made me interested in *rakugo*, but according to my parents, I used to talk about funny stories in front of my family members when I was very small. Also, I don't watch TV programs so often, but one of my favorite TV programs is *Shoten*. I have been watching the program since I was a college student or even before.

My favorite *rakugo* performers are Katsura Shijyaku, Katsura Sanshi, and Katsura Bunchin. Among these three people, the one who performed *rakugo* in English was Shijyaku. Why don't you listen to his *rakugo* performance in English? Well, how did you like it?

Conclusion:

So far, I had a chance to actually see the performances by Sanshi, Bunchin, Hayashiya Shozo and Shunputei Shota. When I go to Tokyo or to Osaka, I often visit comedy theaters there if I have time. I do hope I will be able to make my dream come true. In order to achieve my dream, I have to study not only English but *rakugo* stories as well. Thank you very much for listening.

Appendix 4

Communication IA の授業について (2010)

一期一会という言葉がありますが，ご存知ですか。元来は茶道に由来する言葉のようですが，2010年，偶然のきっかけで「コミュニケーションIA」のこのクラスで皆さんとお会いし，週1回の授業を行ってきました。皆さんの後輩がより良い英語授業を受けることができるよう，また，私の英語教員としての残りの人生を充実したものにするために(？)，皆さんのご意見をお書きください。

1　授業中の活動について，あてはまる番号を○で囲んでください。

(1) ペアでの会話（Q&A）

とても楽しい	楽しい	普通	楽しくない	全然楽しくない
5	4	3	2	1

(2) パラフレーズ（あるものを英語で伝える）

とても役立つ	役立つ	普通	役立たない	全然役立たない
5	4	3	2	1

(3) テキストでの対話練習

とても役立つ	役立つ	普通	役立たない	全然役立たない
5	4	3	2	1

(4) スピーチ

とても役立つ	役立つ	普通	役立たない	全然役立たない
5	4	3	2	1

(5) 授業を受けて，英語を聞いたり，話すことに対して

十分慣れた	慣れた	普通	慣れない	全然慣れない
5	4	3	2	1

(6) 英語の歌について

とても楽しい	楽しい	普通	楽しくない	全然楽しくない
5	4	3	2	1

2　授業全般について，意見や質問を自由に書いてください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ABSTRACT

A Pedagogical Plan for "Communication IA" at Hiroshima University

Kazuaki TSUIDO
Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

This article describes what I have done in one of my English classes at Hiroshima University. I started to teach English in the liberal arts curriculum at Hiroshima University five years ago. Before that, in the teacher development program, I mainly taught upperclassmen who wished to become English teachers in middle schools. In this sense, teaching English to freshmen with a variety of academic backgrounds and also with different levels of English abilities has been quite a new challenge for me, even though I am regarded as an expert on English language education, oftentimes being asked to make comments on lessons I have observed both at elementary and secondary schools.

In this paper, I would like to present some of the ideas which I implemented in "Communication IA," which focuses mainly on developing students' speaking ability, including some problems and concerns I was faced with. In the first semester, 2010, I taught 33 students whose English abilities were not so high. With some information on my personal teaching background as an introduction, the article then depicts the major activities I undertook in this class, which are followed by some feedback from the students through a questionnaire survey. Finally, some problems to be solved in developing students' oral skills are discussed.